

# 浅口市立六条院小学校

・児童数 387名 ・学級数 15学級 ・教職員数 25名 (平成27年2月20日現在)

## ○取組実践のキーワード

・学習意欲の向上 ・基礎基本の確実な定着 ・思考力・判断力・表現力等の育成

## ○標題 (研究主題)

自ら考えをもち、伝え合う児童の育成 ～算数科での学び合いをめざして～

## ○取組を始めた経緯

本校の児童は、与えられた課題に対して粘り強くまじめに取り組むことができる。算数科では、反復練習に取り組むことで基礎的な計算を正確にしたり、パターン化した問題に自信をもって取り組んだりすることができる。一方で、自分の考えを進んでノートに書いたり、友達に分かりやすく説明したりすることはできにくい。教えてもらうことには素直であるが、自分の考えを表現したり発信したりすることに苦手意識をもっている児童も少なくない。今年度の全国学力・学習状況調査においても、「書く」領域に課題があったり、友達に伝えたいことをうまく伝えたり、発表したりすることに苦手意識を感じていたりする児童が多かった。このような実態から、自ら考えをもち、伝え合う児童を育てたいと考えた。また、伝え合いから生まれる友達と一緒に学ぶよさも感じながら、主体的に学ぶ児童の育成に努めたいと考えた。

## ○取組の実施体制

・基礎基本の確実な定着

学力向上推進委員会を中心に教研式学力テストや全国学力・学習状況調査、学力定着状況たしかめテストなどの結果から児童の実態を把握し、全校で基礎基本の確実な定着に向けての計画的・組織的な取組や研修を実施する。

・伝え合い、学び合いのある授業づくり

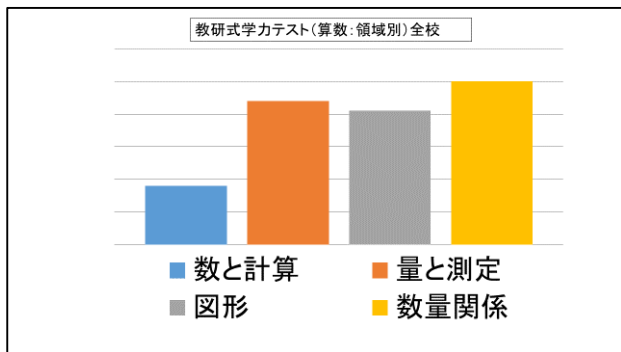
研究主任を中心に推進し、全教職員が年1回以上研究授業をする。共通理解の下に取り組めるように、全員で指導案検討や授業後の協議を行う。

・伝え合い、学び合いができる集団づくり

児童会担当や人権教育担当が中心となって全校や学級で支え合い認め合う集団づくりを計画する。

## ○学力向上に向けた具体的な取組

### ①基礎基本の確実な定着に向けて

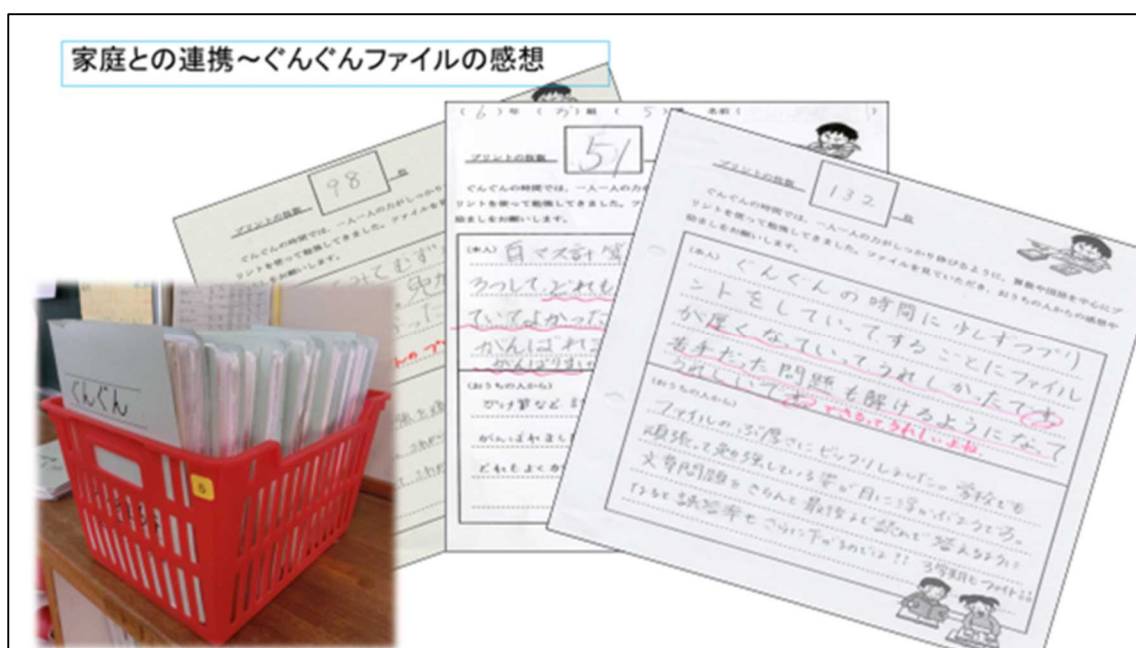


【教研式学力テストの全校の実態～算数科～】

| 年    | 0             | 1             | 2             | 3             | 4             | 5             |
|------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 学力向上 | 学力向上テスト       | 学力向上テスト       | 学力向上テスト       | 学力向上テスト       | 学力向上テスト       | 学力向上テスト       |
| 授業   | 基礎基本の定着に向けた授業 | 基礎基本の定着に向けた授業 | 基礎基本の定着に向けた授業 | 基礎基本の定着に向けた授業 | 基礎基本の定着に向けた授業 | 基礎基本の定着に向けた授業 |
| 研修   | 単元の定着         | 算数(3年)の定着     | 算数(3年)の定着     | 算数(3年)の定着     | 算数(3年)の定着     | 算数(3年)の定着     |
| 活動   | 図形の定着、性質      | 図形の定着、性質      | 図形の定着、性質      | 図形の定着、性質      | 図形の定着、性質      | 図形の定着、性質      |
| その他  | グループ活動の導入     | グループ活動の導入     | グループ活動の導入     | グループ活動の導入     | グループ活動の導入     | グループ活動の導入     |
| 評価   | 1学期の学力テスト     | 1学期の学力テスト     | 1学期の学力テスト     | 1学期の学力テスト     | 1学期の学力テスト     | 1学期の学力テスト     |

【基礎基本の定着に向けての年間計画】

- ・各学年の実態を把握し、基礎基本の定着に向けての年間計画を作成した。
- ・全校で、年3回県教委より配信されている「たしかめテスト・トライシート」（算数科）を実施し、その誤答率の推移を検証しながら、弱点を克服している。
- ・高学年では、意欲的に取り組めるように分からないところをお互いに教え合うという「友達先生」の実践を行った。
- ・各学年が、年1回、言語活動の発表の場として「きりり六小発表会」を行っている。ここでは、「ことわざ遊び」（5年）や「日本旅行～都道府県名～」（4年）など、その学年で身に付けさせておきたい基礎的な内容をみんなで覚えて発表した学年もある。
- ・家庭学習の充実では、家庭学習の時間、基本的な生活習慣やその学年で身に付けさせておきたい内容を示した「家庭学習のしおり」を作成し、各自に配付するとともに懇談会等でも話題にし、家庭の協力をお願いした。また、「ぐんぐんファイル」を持ち帰って児童の頑張りを見ていただき、感想を書いてもらうなど家庭との連携にも努めた。



【ぐんぐんタイムで行ったファイルを家庭で見ってもらう】

## ②伝え合い、学び合いのある授業づくり

- ・算数科の学び方の基となる「六小スタイル」を決めた。これは、岡山型学習指導のスタンダードを参考にし、本校独自の算数科における問題解決型学習の基本形を示したものである。「伝え合う」に重点を置いたり、終末に「振り返り」の場面を入れたりして授業研究をした。
- ・導入場面では、「やってみよう」「とけそう」と意欲的に取り組めるような工夫をした。自ら自分の考えをもつことができるように算数的活動を取り入れたり個に応じたヒントカードなども用意したりした。
- ・「伝え合い」の場面では、ペアトークやグループトークを取り入れた。低学年では、3つの視点を示し、説明の仕方がどうだったかを見合ったり、中学年では、聴く側の視点として伝え合いの「あいうえお」を取り入れたりした。高学年のグループトークでは、みんなで学習するという経験を積み重ねてきたため、相手の説明を正しく聞き、「どうしてそうなるの」と分からないことを質問し合い、そのことをグループのみで本人が納得するまで説明する場面も見られるようになった。
- ・「振り返り」の場面では、低学年では、発表を中心に3段階評価で振り返ったり、学年が上がるにつれて

ノートに書いたりするようにした。その変容を見ると、自分の頑張りや分かったことだけの記述だった児童が、算数的なよさに気付いたり友達の頑張りや説明のよさに気付いた記述をするようになった。また、誤答だった友達が途中で意見を変えて説明することができたことのすばらしさに気付いた児童も見られ、算数科の授業を通して人間関係づくりも行えていることが分かった。振り返りをみると1時間の学び合いの深さが分かり、逆に学び合いがしっかりできた授業は、振り返りもしっかりできることが分かった。



【視点をもったペアトーク～1年生～】

【振り返りの変容～6年生～】

## ○現在までの取組の成果と課題

### 1 成果

- ・基礎基本の確実な定着においては、個人はもちろんクラス、学年でできていない領域（課題）が分かり、年間計画を作成したり課題に対応したプリントを用意したりしやすくなった。
- ・基礎基本の確実な定着は学力向上推進委員会を設置して学校全体で取り組んだことで、たしかめテストの誤答率が低くなった。また、既習事項や計算力の向上により、算数科の授業においても自分の考えをもちやすくなったり計算が速く正確になったりした。
- ・算数科の授業における「六小スタイル」を作ったことで、教職員全員が同じベクトルで授業を実施し検証することができ、教師の指導力の向上につながっている。
- ・伝え合いの場面を重視し研究したことで、ペアやグループでの説明が好きな児童が増えた。
- ・新たに振り返りの場面を取り入れたことで、「算数のよさ」や「自分や友達のよさ」に気付くことを通して、ものの見方や考え方がよりよいものになっていった。また、教師もその時間の学び合いの成果に気付くことができた。
- ・児童会も含めて、学校全体で「学び合いの基盤となる集団づくり」に取り組んだため、普段の生活だけでなく授業においてもお互いに認め合い、高め合う児童の発言やノートへの記述がみられるようになった。
- ・年間3回実施した学校環境適応感尺度「アセス」（ASSESS：Adaptation Scale for School Environments on Six Spheres）においても、生活満足度や学習的適応が上がったクラスが多かった。
- ・特別支援学級の研究授業において、全職員で指導案を検討し、講師を招いての授業参観、研究協議の場を設けることができた。通常学級においても、きめ細やかな手立てや繰り返し学習の大切さなどを共通理解することができた。

### 2 課題

- ・家庭学習においては、家庭との連携を密にしながら児童の頑張りや伝えつつ協力が得られるようにする。また、児童が自主的に取り組めるように今後も工夫していきたい。
- ・基礎基本の定着においては、習熟の度合いを考えながら個に応じた指導を今後も大切にしていきたい。
- ・算数科だけでなく、今後は国語科においても学力向上に向けて取り組んでいきたい。

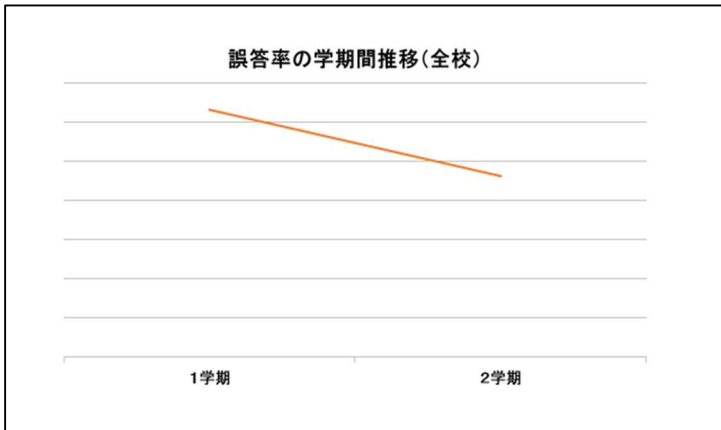
## ○取組の継続・発展の要因

学力向上に向けては「基礎基本の確実な定着」と「学び合いのある授業研究」はどちらも欠かせないと感じている。バランスをとりながら推進していくとともに、主役となる児童の学習意欲を高め「できた」「分かった」という声が一人でも多く上がるように工夫しながら今後も取り組んでいきたい。

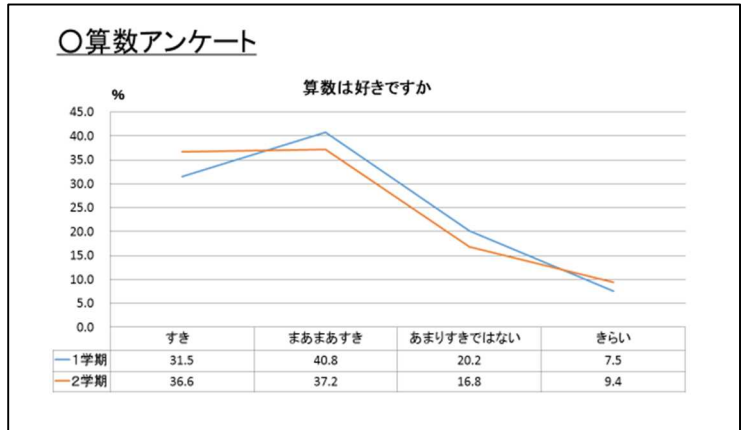
## ○管理職・中核教員等のアクション

学力向上推進委員長や研究主任を中心に常に全員で児童の実態を分析したり取組を振り返ったりしながら推進していくという体制を大切にする。また、管理職の助言を得ながら、全職員が前向きに取り組むことができるようにする。

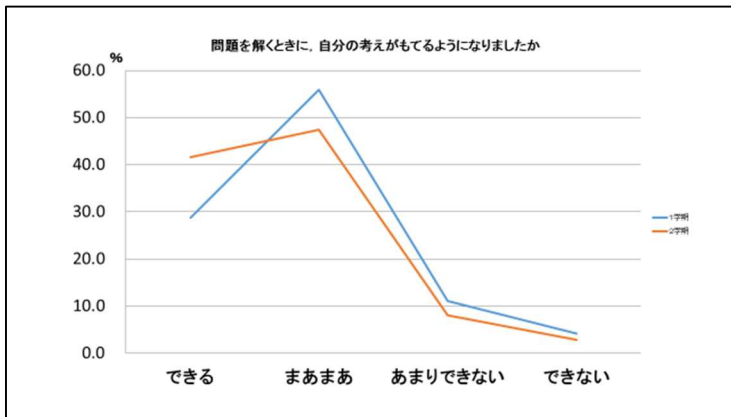
## ○その他の資料・写真等



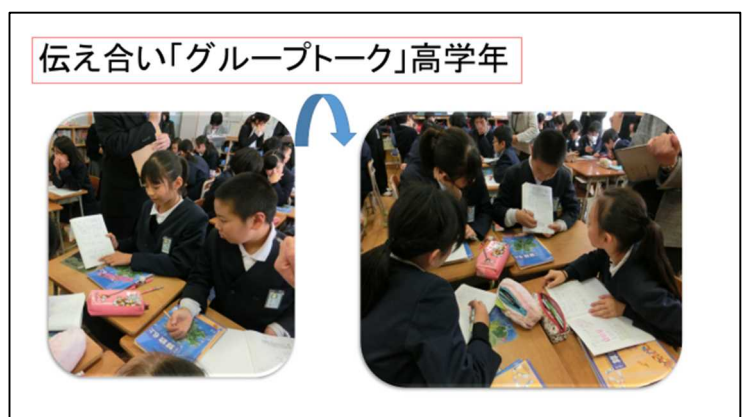
【算数科たしかめテストの誤答率の推移】



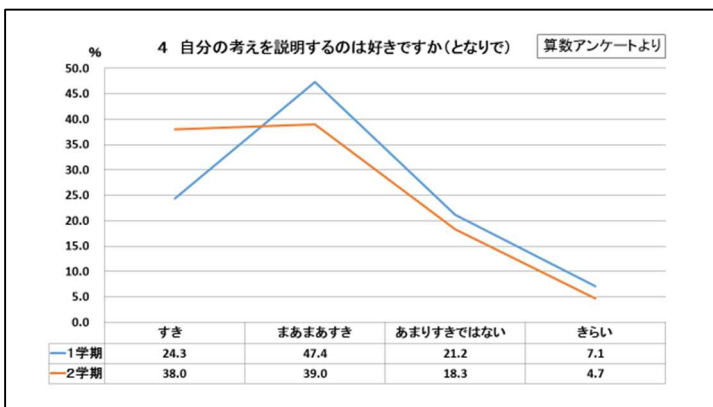
【算数アンケートの結果】(算数好きが増えた)



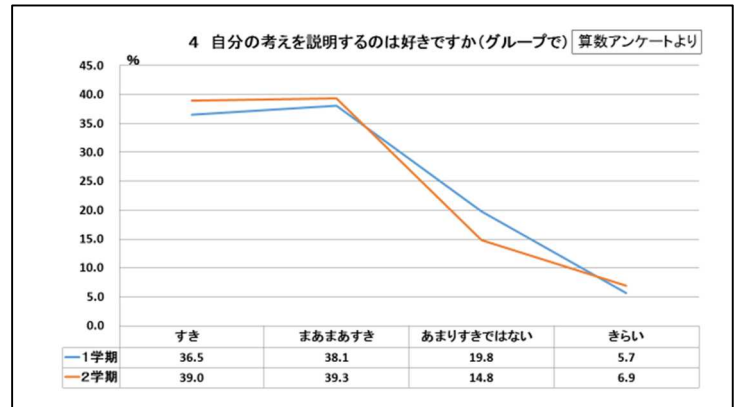
【自分の考えがもてるようになった】



【グループトークの様子】



【ペアトークを好きになった】



【グループトークを好きになった】